

21 世紀ヒューマン・インタラクション・リサーチ・センター および各研究員の活動記録

1. 共同企画

- 1) 成均館大学（韓国）&東洋大学 HIRC21 共同セミナー
日時：2017年11月3日-4日
テーマ：逆境・共感性・セルフコントロールと適応
企画：崔 訓碩（成均館大学） 安藤 清志（東洋大学）
- 2) 東洋大学 HIRC21 & ポジティブ心理学研究会共催 研究会
日時：2017年12月9日-10日
【12月9日（土）】 場所：東洋大学白山キャンパス
発表者：菅原大地（筑波大学） タイトル：「ポジティブ心理学と臨床心理学の接点を探る」
特別講演：島井哲志（関西福祉大学） タイトル：「Character strengths を用いた介入に向けて」
【12月10日（日）】 場所：LMJ 東京研修センター
発表者：芳賀道匡（日本大学） タイトル：「学生のソーシャル・キャピタルとウェルビーイングの心理学的研究」
発表者：金子迪大（東洋大学） タイトル：「日々の幸せは持続するか：感情持続研究からの検討」
発表者：鷹阪龍太（東洋大学） タイトル：「適応的な自尊感情を求めて」
発表者：片岡雅知（東京大学） タイトル：「未来の幸せのために今の幸せを犠牲にして本当にいいのか？」
- 3) 東洋大学 HIRC21 & 成均館大学（韓国） 共同セミナー
日時：2018年1月26日-27日
テーマ：社会生活における逆境と共感性
企画：安藤 清志（東洋大学） 崔 訓碩（成均館大学）
- 4) 東洋大学 HIRC21 & 翰林大学（韓国） 第7回共同セミナー
日時：2018年2月24日（土）
企画：安藤 清志（東洋大学） 趙 恩慶（翰林大学）
- 5) 社会行動研究会&東洋大学 HIRC21 共催 研究会
【第181回】 2017年5月27日（土）16:30~17:30
【タイトル】 時間的および社会的自己制御における社会・文化環境の影響
【発表者】 石井敬子 先生（神戸大学大学院人文学研究科）
【第182回】 2017年7月1日（土）16:30~17:30
【タイトル】 社会行動の多様性と遺伝と環境のかかわり
【発表者】 野村 理郎 先生（京都大学大学院教育学研究科）
【第183回】 2017年12月2日（土）15:00~18:00
【タイトル】 ビッグデータからスマートデータへの移行と謙虚さ（Humility）の重要性
【発表者】 ニール・シーマン（RIWI社 CEO）
【タイトル】 インターネットリサーチの学術利用についての現状と留意点
【発表者】 小野沢 輝道（株式会社クロス・マーケティング）

2. 論文

- Aiba, M., Tachikawa, H., Fukuoka, Y., Lebowitz, A., Shiratori, Y., Doi, N., & Matsui, Y. (2017). Standardization of Brief Inventory of Social Support Exchange Network (BISSEN) in Japan. *Psychiatry Research*, 253, 364-372.
- 大坊 郁夫 (2017). Well-being を目指すコミュニケーション研究 応用心理学研究, 43, 58-73.
- 遠藤 真名美・松田 英子・柴田 良一 (2017). Big Five パーソナリティが対人ストレスコーピングに及ぼす影響—認知的評価媒介モデルの検証— 江戸川大学紀要, 27, 335-341.
- Fujiwara, K. & Daibo, I. (2017). Synchrony increases the accuracy of affective judgment in dyadic interaction. 電子情報通信学会技術研究報告, 116 (524), 1-4.
- 日向 野智子・山極 和佳・藤後 悦子・角山 剛 (印刷中). 潜在保育士の退職理由と再就職意欲の実態 モチベーション研究, 7.
- Kaneko, M., Ozaki, Y., & Horike, K. (in press). Curiosity about a positive or negative event prolongs the duration of emotional experience. *Cognition and Emotion*, DOI: 10.1080/02699931.2017.1324766 (May, 2017).
- Kato, T. (2017). Effects of coping flexibility on cardiovascular reactivity to task difficulty. *Journal of Psychosomatic Research* (Elsevier), 95, 1-6. DOI: 10.1016/j.jpsychores.2017.02.001. PMID: 28314543
- Kato, T. (2017). Effects of flexibility in coping with menstrual pain on depressive symptoms. *Pain Practice* (John Wiley & Sons), 17, 70-77. DOI: 10.1111/papr.12412. PMID: 26895743.
- 川瀬 洋子・松田 英子 (2017). 悪夢と不眠を訴える女子高校生に対するスクールカウンセリングの事例 ストレスマネジメント研究, 13 (1), 32-41.
- 許 倩・松田 英子 (2017a). 睡眠の不調とパーソナリティ特性—日本人大学生と在日中国人留学生の比較— ストレスマネジメント研究, 13 (1), 23-31.
- 許 倩・松田 英子 (2017b). 在日中国人留学生の異文化適応を促進・抑制する要因 東洋大学 21 世紀ヒューマン・インタラクション・リサーチ・センター研究年報, 14, 55-59.

- 久保 ゆかり (2017). 葛藤する感情をことばにすることの発達——精神的成長を支える「感情語り」の始まり 東洋大学 21 世紀ヒューマン・インタラクション・リサーチ・センター研究年報, 14, 9-14.
- 松田 英子 (2017a). 不眠と悪夢に関する短期認知行動療法に関する実験的検討 ストレスマネジメント研究, 13 (1), 17-21.
- 松田 英子 (2017b). 夢はどうやって作られるのか——記憶と睡眠障害のメカニズム α -Synodos, 221, 34-43.
- 松井 豊 (2017). 凄惨な現場を経験した消防職員のメンタルヘルスについて プレホスピタル・ケア, 30 (1), 27-31.
- 松井 豊・藤田 浩之・小林 麻衣子・高橋 幸子・仲嶺 真 (2017). 地下鉄サリン事件被害者・家族の心理——社会心理学研究会開催報告—— 東洋大学 21 世紀ヒューマン・インタラクション・リサーチ・センター研究年報, 14, 89-94.
- Matsuo, A., Takahashi, N., & Matsui, Y. (2017). Classification of social stereotypes by Japanese social psychologists, 筑波大学心理学研究, 53, 51-62.
- 水野 剛也 (2018a). 「新聞 4 コマ漫画が描く菅直人首相 (後編-2) 首相在任期間中の 3 大紙の 4 コマ漫画に関する一分析 2010~2011」 東洋大学社会学部紀要, 55(1), 21-41.
- 水野 剛也 (2018b). 「新聞 4 コマ漫画が描く菅直人首相 (結論) 首相在任期間中の 3 大紙の 4 コマ漫画に関する一分析 2010~2011」 東洋社会学部紀要, 55(2), 5-16.
- 岡田 斉・松田 英子 (2017). 悪夢の生起メカニズムと支援に関する心理学的研究の動向 ストレスマネジメント研究, 13 (1), 11-16.
- Saldaña, O., Rodríguez-Carballeira, A., Almendros, C., & Nishida, K. (2018). Psychological abuse experienced in groups scale: Psychometric properties of the Japanese version. *The Japanese Psychological Research*, 60, 13-24.
- 須田 木綿子 (2017). 民間サービス供給組織の広域化と地方自治体の役割 社会政策学, 9(2), 101-112.
- 鈴木 規子 (2017). 解題と概要 (Roland Pfefferkorn, L'entrée des femmes dans les universités européennes: France, Suisse et Allemagne) フランス教育学会紀要, 29, 104-106.
- 鈴木 規子・シルヴァン シルマン・ジェイ ローウェル (2017). 「ヨーロッパのレジリエンス—歴史・現在」講演録——解説付き 日仏政治研究, 11, 37-48.
- 谷口 尚子 (2018). 地方自治・地方分権の政治争点化 地方自治法施行 70 周年記念論文集, 総務省自治行政局.
- 戸梶 亜紀彦 (2017). 職場の人間関係に基づいた若年層のレジリエンス向上策について 東洋大学 21 世紀ヒューマン・インタラクション・リサーチ・センター年報, 14, 3-8.
- 戸梶 亜紀彦 (2018). オフィス改革による公務員の職場における意識・行動の変化に関する検討 ——愛媛県西予市を事例として—— 現代社会研究 (東洋大学現代社会総合研究所紀要), 15, 3-10.
- 月田 有香・高嶋 和毅・横山 ひとみ・市野 順子・伊藤 雄一・大坊 郁夫・北村 喜文 (2017). コミュニケーショントレーニングが集団討論場面に与える影響 ~ 即興劇 (インプロ) の有無の比較を通して ~ 電子情報通信学会技術研究報告, 116 (524), 143-148.
- 和田 迪子・渡辺 麻美・市村 美帆・松井 豊 (2017). Web 調査による新しいエゴグラム の尺度開発 筑波大学心理学研究, 53, 63-72.
- 吉野 美緒・重村 朋子・高田 治樹・市村 美帆・稲本 絵里・川尻 泰樹・増野 智彦・松井 豊・横田 裕行 (2017). 病院前救急診療活動に従事する医師の外傷性ストレスに関する研究 ト라우マティック・ストレス, 14, 63-72.
- 兪 善英・古村 健太郎・松井 豊・丸山 晋 (2017). 東日本大震災被災地に派遣された消防職員のストレス症状と外傷後成長 心理学研究, 87, 644-650.

3. 著書

- 大坊 郁夫 (2017a). 社会心理学へのいざない——社会心理学の現在とこれから—— 大坊郁夫編 心理学と仕事 10 巻「社会心理学」第 1 章 (pp.1-16) 北大路書房
- 堀毛 裕子 (2017). 乳がん患者へのポジティブ介入の試み 太田信夫 (監)・竹中晃二 (編) シリーズ心理学と仕事 12・健康心理学 (pp.131) 北大路書房.
- 堀毛 一也 (2017). 健康心理学の応用とその可能性: ポジティブ心理学 大竹恵子 (編) 保健と健康の心理学——ポジティブヘルスの実現—— ナカニシヤ出版.
- 堀毛 一也・竹村 和久・小川 一美 (2017). 社会心理学: 人と社会との相互作用の探求 培風館.
- 角山 剛 (2017). 産業・組織科目 日本心理学諸学会連合心理学検定局 (編) 心理学検定公式問題集 2017 年度版 実務教育出版.
- 久保 ゆかり (2017). 社会性の発達 近藤 清美・尾崎 康子 (編) 社会・情動発達とその支援 ミネルヴァ書房 (pp.60-75).
- 松田 英子 (2017). 「不眠症者への健康心理学的援助」 日本健康心理学会 (企画) 『臨床健康心理学』 (分担執筆) (pp.139-155) ナカニシヤ出版.
- 松井 豊 (2017). ストーキング 小田切紀子・野口康彦・青木聡 (編) 家族の心理 変わる家族の新しいかたち 金剛出版.
- 水野 剛也 (2018). 浅野七之助 日本にも影響を与えた日系人ジャーナリスト 土屋礼子・井川充雄編・著 (編) 近代日本メディア人物誌 ジャーナリスト編 (pp. 227-228) ミネルヴァ書房.
- 西田 公昭 (2017). 第 15 章 マインド・コントロールと犯罪 越智啓太・桐生正幸 (編). 司法・犯罪心理学 北大路書房.
- 須田 木綿子・平岡 公一・森川 美絵 (編著・訳) (2018). 東アジアの高齢者ケア 東信堂.
- 谷口 尚子・柘原 修 (2018). 経済環境と市民的価値観の変容 池田謙一 (編著) 「日本人」は変化しているのか——価値観・ソーシャルネットワーク・民主主義 勁草書房.
- Tsuda, A., Tanaka, A., & Matsuda, E. (in press). Locus of Control. *The Wiley- Blackwell Encyclopedia of Personality and Individual Differences*. Wiley & Sons 2017 年 5 月.
- 上原 秀一・鈴木 規子 (2018). 第 1 章 フランス政治の変遷と教育改革 フランス教育学会 (編) 『現代フランスの教育改革』 明石書店.
- 山本 須美子 (編) (2017). ヨーロッパにおける移民二世代の学校適応——スーパーダイバーシティへの教育人類学のアプローチ 明石書店.

4. シンポジウム

大坊 郁夫

日本教育心理学会第 59 回大会 シンポジウム「学習動機づけ研究の未来～教育心理学研究における動向とこれから～」(指定討論) 2017 年 10 月 7 日 名古屋国際会議場(愛知県名古屋市).

堀毛 一也

日本心理学会第 81 回大会自主シンポジウム “幸福概念の多様性——日本・オランダ・コスタリカ 3 カ国調査を通じて”(指定討論) 2017 年 9 月 20 日 久留米シティプラザ(福岡県久留米市).

角山 剛

第 124 回産業・組織心理学会 部門別研究会公開シンポジウム(組織行動部門)(企画) 「感情労働～医療・福祉の現場から～」 2017 年 3 月 17 日 筑波大学東京校舎(東京都文京区).

東京未来大学モチベーション研究所第 9 回フォーラム(企画・司会) 働くひとのメンタルヘルスを支援する——個人、組織双方へのアプローチ—— 2017 年 2 月 25 日 東京未来大学(東京都足立区).

東京未来大学モチベーション研究所第 10 回フォーラム(企画・司会) 災害リスクを考える——正しく怖がり、正しく行動をとるためにできること—— 2017 年 12 月 02 日 東京未来大学(東京都足立区).

社会性の発達と健全なパーソナリティ育成に関する国際ハイレベル・フォーラム(発表) 「営業職員の楽観・悲観的思考が販売成績に及ぼす影響」 2017 年 3 月 18 日 - 3 月 19 日 遼寧師範大学(中国).

日本応用心理学会公開シンポジウム(企画委員会委員長) 暴力的な絆はなぜ生じるのか——DV の予防に向けて—— 2017 年 11 月 18 日 帝塚山大学(奈良県奈良市).

久保 ゆかり

日本発達心理学会第 29 回大会シンポジウム(指定討論) ラウンドテーブル「笑う・笑わせる・笑われる」 2018 年 3 月 25 日 東北大学(宮城県仙台市).

松田 英子

日本心理学会第 81 回大会シンポジウム(企画代表者、話題提供者) 「悪夢生起メカニズムの認知神経科学的理解と認知行動療法による介入」 2017 年 9 月 20 日 久留米シティプラザ(福岡県久留米市).

第 24 回日本行動医学会学術総会シンポジウム(座長)「両立支援」 聖路加国際大学(東京都中央区).

松井 豊

日本カウンセリング学会研修会「災害後の災害救援者への心理支援について」 2017 年 9 月 22 日(東京都文京区).

世界健康安全保障行動グループ・化学イベントワーキンググループ・シンポジウム “Posttraumatic stress symptoms in victims of Tokyo Subway Sarin Attack, Twenty years later”(講演) 2017 年 11 月 20 日.

西田 公昭

日本心理学会第 81 回大会シンポジウム 「テロリズムに対して心理学はなにができるのか(2)」(話題提供) 2017 年 9 月 23 日 久留米シティプラザ(福岡県久留米市).

須田 木綿子

Social entrepreneurial activities and nonprofit organizations in China, “The features and challenges of the long-term care in Japan.” (invited), Nanjing, China (April 27, 2017).

“Long Term Care Insurance (LTCI): Focusing on Nonprofit and For-profit Service organizations.” (invited), Nanjing University, China (April 28, 2017)

International Conference on the innovation and development of social entrepreneurship and employment for the disabled in Asia, “Grassroots Voluntary Organizations and Specified Nonprofit Corporations: The Long-Term Care Insurance System in Japan.” (invited), 台湾大学医院国際会議センター, 台湾 (September 8, 2017).

The 46th Annual Conference of Association for Research on Nonprofit and Voluntary Action Emerging scholar session: commentator, Grand Rapids, MI, USA. (November 16-18, 2017).

鈴木 規子

日仏会館招聘シンポジウム 「1963 年以降のライン川上流域における仏独協力：欧州統合への貢献と仏独和解」(司会・コーディネーター・通訳) 2017 年 10 月 14 日 日仏会館(東京都渋谷区).

日仏政治学会主催講演会(共催：日仏会館) “La montée de l'eurosepticisme en Europe lors des élections européennes en 2014 : expression d'un phénomène plus profond?” (“2014 年欧州議会選挙にみられたヨーロッパにおける EU 懐疑主義の高まり：より根源的な現象の表れか?”) (司会・コーディネーター・通訳) 2017 年 10 月 17 日 東洋大学(東京都文京区).

谷口 尚子

総務省主催「地方自治法施行 70 周年記念シンポジウム」(パネル・ディスカッション登壇) 2017 年 11 月 20 日 東京国際フォーラム(東京都千代田区).

5. 講演

堀毛 一也

ポジティブなこころの科学——ポジティブ心理学の展開 新潟青陵学会第 10 回学術集会「ウェル・ビーイングを支えるもの再考」基調講演.

角山 剛

「モチベーション・マネジメント ～一人一人が生き生きと働くために～」 2017 年 6 月 13 日 日立システムズ本社.

「数字で見る！子どもたちの学習意欲」 墨田区教育委員会 2017 年 10 月 26 日 墨田区役所.

「児童生徒の学習意欲向上を自覚して」 墨田区立中和小学校・墨田区教育委員会 2017 年 12 月 11 日 墨田区立中和小学校.

松井 豊

消防職員惨事ストレス研修会「消防職員の現場活動にかかるストレス対策」講演 2017 年 5 月 22 日(栃木県宇都宮市).

東京消防庁平成 29 年度惨事ストレス対策補充養成講座「消防団員の惨事ストレス」講演 2017 年 7 月 1 日(東京都千代田区).

直方市消防本部公害防止対策セミナー「消防職員の惨事ストレス対策について」講演 2017年10月2日(福岡県直方市).
NPO 法人災害看護支援機構災害看護セミナー「災害による死別- 曖昧な喪失について」講演 2017年10月15日(東京都渋谷区).
烏山地域オウム真理教対策住民集会「地下鉄サリン事件の被害は続いている」講演 2017年11月12日(東京都世田谷区).
宮崎県看護協会災害看護研修会「惨事ストレスの基礎知識をストレスケア」講演 2017年11月14日(宮崎県宮崎市).
福井県消防長会「消防職員の現場活動に係る惨事ストレス対策」 2017年12月15日(福井県鯖江市).
東京都立小石川中等学校大学講座「恋愛心理学」講義 2017年12月20日(東京都文京区).
日本消防協会第44回消防団幹部特別研修「惨事ストレス対策」講義 2018年1月11日(東京都港区).
熊本県消防ピアカウンセラー養成講座「惨事ストレスの反応と対策」 2018年1月15日(熊本県熊本市).
神奈川県消防協議会・横浜市消防職員協議会「消防職員の惨事ストレス学習会」講演 2018年1月22日(神奈川県横浜市).

6. 研究交流会 (研究会)

松田 英子

Matsuda, K. E. "Cognitive Behavioral Therapy for Japanese Nightmare Sufferer." (Oral Presentations) SKKU-Toyo University Joint Symposium, Sungyunkwan University, Korea, Seoul (November 3, 2017).

須田 木綿子

福祉社会学会有志研究交流会 (主催者) 2017年9月15日~17日 新潟医療福祉大学 (新潟県新潟市).

社会政策学会有志研究交流会 (主催者) 2018年2月2日~3日 同志社大学 (京都府京都市).

鈴木 規子

Conflict and cooperation at EU-Borders: the Crisis of terrorism, migration and Euroscepticism and their consequences for a "Europe without borders" (「EU 国境における紛争と協力: テロリズム、移民、EU 懐疑主義の危機と、『国境なきヨーロッパ』への影響」) (司会・コーディネーター) 主催: 関西政治史研究会、共催: 日仏会館 2017年10月21日 神戸大学六甲山キャンパス (兵庫県神戸市).

谷口 尚子

「第1回データ解析セミナー: サーヴェイ・データ分析の現在と未来」(主催) 2017年9月3日 慶應義塾大学日吉キャンパス (神奈川県横浜市).

山本 須美子

科研共同研究研究会 (海外学術 B「EU における中国系新移民の子どもにみるトランスナショナリズムに関する教育人類学的研究」研究代表者: 山本 須美子) 2017年6月27日 東洋大学白山キャンパス.

7. 学会発表

Daibo, I., & Kakuyama, T. "Influence of employees' working characteristics and the psychological states on their subjective well-being enhancement." AASP2017 (12th Conference of the Asian Association of Social Psychology), Auckland, New Zealand (August 27, 2017).

江利川 滋・山田 一成 「公募型 Web 調査における回答デバイスと回答傾向 (2) ——回答デバイスによるテレビ視聴時間回答の変化—— 日本社会心理学会第58回大会 2017年10月28日 広島大学 (広島県東広島市).

日向野 智子・山極 和佳・藤後 悦子・角山 剛 「潜在保育士の退職理由と再就職意欲の実態」 日本心理学会第81回大会 2017年9月20日 久留米シティプラザ (福岡県久留米市).

廣瀬 竜太郎・木村 真利子・西田 公昭 「金融機関における特殊詐欺対策に関する心理学的検討(1): 顧客に対する有効な声掛け方法の検討」 日本応用心理学会第84回大会 2017年8月27日 立正大学 (東京都品川区).

堀毛 裕子・原 央晃 「シャーデンフロイデの喚起によるネガティブ感情の変化——『他人の不幸は蜜の味』と感ずることの効果——」 日本パーソナリティ心理学会第26回大会 東北文科大学 (山形県山形市).

堀毛 裕子・佐藤 美華・松浦 裕美・佐藤 春奈・君島 伊造 「乳がん患者におけるポジティブ経験——ポジティブ介入により報告された「よいこと探し」の内容分析——」 日本健康心理学会第30回大会 2017年9月 明治大学 (東京都千代田区).

Horike, H. "Long-term effects of positive intervention in breast cancer patients." 5th World Congress on Positive Psychology, Montreal, Canada (July 14, 2017).

Horike, K. "Mental recovery from social adversities: Comparison among three adversities." 5th World Congress on Positive Psychology, Montreal, Canada (July 14, 2017).

堀毛 一也 「主観的ウェル・ビーイング尺度間の関連に関する整理・検討」 日本社会心理学会第58回大会 2017年10月30日 広島大学 (広島県東広島市).

堀毛 一也・安藤 清志・大島 尚・堀毛 裕子・高橋 幸子 「社会的逆境からの個人・回復資源 (3) ——死別体験者と離別体験者の PTSD、PTG、精神的回復・成長資源の比較——」 日本心理学会第81回大会 2017年9月 久留米シティプラザ (福岡県久留米市).

堀毛 一也・堀毛裕子 「主観的ウェル・ビーイング尺度間の関連に関する整理・検討」 日本社会心理学会第58回大会 2017年10月 広島大学 (広島県東広島市).

堀内 聡・津田 彰・米田 健一郎・伏島 あゆみ・三原 健吾・田中 芳幸・岡村 尚昌・松田 英子・津田 茂子・内村 直尚(2017). 「ポジティブティと気分の関連に対するストレスの媒介効果に関する検討」 第24回日本行動医学会学術総会 2017年12月2日 聖路加国際大学 (東京都中央区).

磯 友輝子・小林 寛子・角山 剛・大坊 郁夫 「学習行動の促進・阻害要因の検討~小学生の内発的動機づけを中心に~」 日本心理学会第81回大会 2017年9月20日 久留米シティプラザ (福岡県久留米市).

金子 迪大・鷹阪 龍太・尾崎 由佳 「経験サンプリング法を用いた情動持続時間の検討」 日本社会心理学会第58回大会 2017年10月30日 広島大学 (広島県東広島市).

Kaneko, M., Takawaki, R., Ozaki, Y. "Duration of Emotional Experience and its Relationship with Duration of

- Emotion-Eliciting Event: Using Experience Sampling Survey.” 19th Annual Convention of Society for Personality and Social Psychology, Atlanta, Georgia, U.S.A. (March 3, 2018).
- 木村 真利子・廣瀬 竜太郎・西田 公昭 「金融機関における特殊詐欺対策に関する心理学的検討 (2): 声掛けに対する顧客反応への金融機関職員の意見分析」 日本応用心理学会第 84 回大会 2017 年 8 月 27 日 立正大学 (東京都品川区).
- 木村 真利子・西田 公昭 「破壊的カルトにおけるビリーフ・システムの形成・変容/維持・強化 (1): 集団との接触時点における個人の背景要因に関する検討」 日本グループミックス学会第 64 回大会 2017 年 9 月 30 日 東京大学 (東京都文京区).
- 木村 真利子・西田 公昭 「破壊的カルトにおけるビリーフ・システムの形成・変容/維持・強化 (2): マインド・コントロール技術の団体間比較とビリーフ・システムへの影響」 日本社会心理学会第 58 回大会 2017 年 10 月 28 日 広島大学 (広島県東広島市).
- Kimura, M., & Nishida, K. “Cultic Belief Formation and Maintenance by Mind Control.” Annual Conference of International Cultic Studies 2017, Bourdoux, France (June 29, 2017).
- 久保 ゆかり 感情経験について語ることの発達——幼児の感情語りにおいて時間的文節化を支えることの効果—— 日本発達心理学会第 28 回大会 2017 年 3 月 26 日 広島大学 (広島県東広島市).
- Kutsuzawa, G., Fukase, S., Ozaki, Y., Narita, N., & Osaka, H. “Mental contrasting, implementation intentions, and related experience of stress.” 19th Annual Convention of Society for Personality and Social Psychology, Atlanta, Georgia, U.S.A. (March 2, 2018).
- 沓澤 岳・尾崎 由佳 「セルフコントロール特性の高さがトレーニングの効果に及ぼす影響」 日本社会心理学会第 58 回大会 2017 年 10 月 29 日 広島大学 (広島県東広島市).
- 倉矢 匠・安藤 清志 「“男と女はこんなに違う”は受け入れられているのか——効果量の図視化を用いたジェンダー類似モデルとの比較検証および両面価値的性差別の影響——」 日本社会心理学会第 58 回大会 2017 年 10 月 29 日 広島大学 (広島県東広島市).
- Kuraya, T., & Ando, K. “Schadenfreude as Backlash toward Gender Deviance: Do Gender Non-conforming Members’ Misfortunes Induce Experiences of Pleasure under System Threat?” 19th Annual Convention of Society for Personality and Social Psychology, Atlanta, Georgia, U.S.A. (March 3, 2018).
- 松田 英子 「高齢者の夢想起と認知機能に関する研究 (2) ——施設入所認知症者と健常高齢者の夢の頻度, 長さ, 内容に関する比較——」 日本健康心理学会第 30 回記念大会 2017 年 9 月 3 日 明治大学 (東京都千代田区).
- 松田 英子・岡田 斉 「睡眠の不調と Big Five Personality Traits の関連についての予備的研究」 日本パーソナリティ心理学会第 26 回大会 2017 年 9 月 8 日 東北文京大学 (山形県山形市).
- 松田 英子・岡田 斉 「夢想起の発達差に関する研究 ——高齢者・大学生・高校生の夢の頻度と内容に関する比較——」 日本心理学会第 81 回大会 2017 年 9 月 22 日 久留米シティプラザ (福岡県久留米市).
- Mizuno, T. “The ‘Enemy Language’ Press under Martial Law: Military Control of Japanese Newspapers in Wartime Hawai’i.” East-West Center, Honolulu, Hawai’i (March 27, 2017).
- Mizuno, T. “The Impact of Pearl Harbor on the Japanese-Language Press in Hawai’i: Immediate Reactions to the Attack and Subsequent Military Licensing, Suspension, and Censorship.” Association for Education in Journalism and Mass Communication (AEJMC), National Convention, Chicago (August 9, 2017).
- Mizuno, T. “The ‘Enemy Language’ Press in Hawai’i under Martial Law: The *Nippu Jiji*, *Hawaii Hochi*, and Licensing System during World War II.” Japanese Diaspora Initiative Workshop, Hoover Institution Library & Archives, Stanford University (November 13-15, 2017).
- 水野 剛也 「戒厳令下のハワイ日本語新聞と統制 真珠湾攻撃から報道許可制度の施行まで」 日本アメリカ史学会 2017 年 9 月 24 日 愛知県立大学 (愛知県長久手市).
- 中川 瑞巴・松田 英子 「マインドフルネス瞑想が自己肯定意識とセルフコントロールに与える影響」 日本行動科学学会第 33 回ウィンターカンファレンス 2017 年 2 月 25 日 花月荘 (石川県白山市).
- Ozaki, Y., & Kaneko, M. “Social Exclusion Instigates Future-Oriented Choice in Temporal Preference Tasks” 19th Annual Convention of Society for Personality and Social Psychology, Atlanta, Georgia, U.S.A. (March 2, 2018).
- 尾崎 由佳, 成田 範之, 逢坂 宏子, 沓澤 岳, 深瀬 菜瑛子 「MCII (Mental Contrasting & Implementation Intention)による達成促進効果の検証」 日本社会心理学会第 58 回大会 2017 年 10 月 29 日 広島大学 (広島県東広島市).
- 岡田 斉・松田 英子 「大学生を対象にした悪夢の内容別頻度についての調査」 日本イメージ心理学会第 18 回大会 2017 年 8 月 23 日 大阪人間科学大学 (大阪府摂津市).
- 岡田 斉・松田 英子 「悪夢の苦痛度に関連する精神的要因の検討」 日本心理学会第 81 回大会 2017 年 9 月 20 日 久留米シティプラザ (福岡県久留米市).
- 尾上 成一・谷口 尚子・澁谷 壮紀 “If You Can Be Reborn, What Is Your Desirable Income Distribution? An Experiment of Rawls’s Justice.” 日本政治学会研究大会 2017 年 9 月 24 日 法政大学 (東京都千代田区).
- Suda, Y. “Changes in citizen participation in Japanese civil society.” 2017 ARNOVA Asian conference. 人民大学, Beijing, China (June 6-7, 2017).
- 高橋 萌黄・松田 英子 「友人との共食が大学生のメンタルヘルスに与える影響」 日本行動科学学会第 33 回ウィンターカンファレンス 2017 年 2 月 25 日 花月荘 (石川県白山市).
- 谷口 尚子 「排外主義に関する国際比較分析」 日本選挙学会研究会 2017 年 5 月 20 日 香川大学 (香川県香川市).
- 戸梶 亜紀彦 「職場の人間関係に基づいた若年層のレジリエンス向上策」 日本感情心理学会第 25 回大会 2017 年 6 月 24 日 同志社大学 (京都府京都市).
- 戸梶 亜紀彦 「オフィス改革による公務員の職場における意識・行動の変化に関する検討 ——愛媛県西予市を事例として——」 日本認知科学学会第 34 回大会 2017 年 9 月 14 日 金沢大学 (石川県金沢市).
- 王 尚・松田 英子 「中国人大学生の睡眠の質と抑うつ, 不安及び人格特性との関連」 日本健康心理学会第 30 回記念大会 2017 年 9 月 2 日 明治大学 (東京都千代田区).
- Watanabe, T., & Nishida, K. “Social Psychological Study of the Recovery Process of Former Cult Members.” Annual Conference of International Cultic Studies 2017, Bourdoux, France (July 1, 2017).
- 渡辺 和弥・西田 公昭 「破壊的カルト脱会者の心理的回復過程 (1): 心理的回復過程モデルの作成」 日本グ

- ループミックス学会第 64 回大会 2017 年 9 月 30 日 東京大学 (東京都文京区).
- 渡辺 和弥・西田 公昭 「破壊的カルト脱会者の心理的回復過程 (2): 心理的回復過程モデルの妥当性の検討」 日本社会心理学会第 58 回大会 2017 年 10 月 28 日 広島大学 (広島県東広島市).
- Winkler, G. C., & Taniguchi, N. "The Impacts of Electoral System Reform on the Party Manifestoes in Japan." The 2017 Asian Electoral Studies Conference, Incheon, South Korea (October 28, 2017).
- 山田 一成 「Web 調査における回答時間と回答中断行動 (特別セッション Web 調査における回答行動の検討) 日本行動計量学会第 45 回大会 2017 年 8 月 30 日 静岡大学 (静岡県静岡市).
- 山田 一成・江利川 滋. 公募型 Web 調査における回答デバイスと回答傾向 (1) ——スマートフォン回答者の回答者特性と回答ストレス—— 日本社会心理学会第 58 回大会 2017 年 10 月 28 日 広島大学 (広島県東広島市).
- Yamamoto, S. "School Failure among new Chinese immigrants from Wenzhou in Paris schools." the Congress of ISSCO (the International Society for the Study of Chinese Overseas) Nagasaki, Nagasaki University, Nagasaki, Japan (November 19, 2017).
- 米田 健一郎・津田 彰・堀内 聡・伏島 あゆみ・三原 健吾・田中 芳幸・岡村 尚昌・松田 英子・津田 茂子・内村 直尚 「邦訳版 Stress Mindset Measure の因子構造と信頼性・妥当性の検討」 日本心理学会第 81 回大会 2017 年 9 月 22 日 久留米シティプラザ (福岡県久留米市).

8. その他

- 角山 剛 組織心理の応用研究 (組織・人的資源管理基礎講座- 1) 研修講師 キャリアカウンセリング協会 2017 年 6 月 24 日 新橋ビジネスフォーラム.
- 角山 剛 組織心理の応用研究 (組織・人的資源管理基礎講座- 2) 研修講師 キャリアカウンセリング協会 2017 年 12 月 3 日 新橋ビジネスフォーラム.
- 角山 剛 プロフェッショナルと趣味～モチベーション研究の視点から～ 「学校運営」2017 年 7 月号 株式会社学校運営研究会 全国公立学校教頭会編集・発行 2017 年 7 月.
- 角山 剛 大学改革促進へのモチベーションを考える 日本私立大学協会「教育學術新聞」 特集論説 2017 年 3 月 22 日.
- 大坊 郁夫 (2017b). 男女は異文化一つながりが努力から紡がれる— 倫風 2017 年 10 月号 (pp.28-31) 実践倫理宏正会.
- 松井 豊 文部科学省科学研究費補助金 (基盤研究 C) 「災害救援者の惨事ストレス耐性に関する縦断的検討: 神経心理学的適性検査の開発」(研究代表者: 畑中美穂) 2015 年～現在.
- 松井 豊 文部科学省科学研究費補助金 (基盤研究 C) 「交通外傷児と家族の PTSD に関する研究- 早期スクリーニングと心理教育の効果検証- 」(研究代表者: 吉野美緒) 2016 年～現在.
- 松井 豊 平成 29 年度がんサバイバーシップ研究助成金「若年がん体験者のがん罹患が恋愛及び結婚に及ぼす影響について」研究代表者 2017 年～現在.

※プロジェクトに参加するメンバーは以下の通りである。

〔研究員〕

- 安 藤 清 志 (東洋大学社会学部教授) 〔統括責任者〕
- 大 島 尚 (東洋大学社会学部教授)
- 堀 毛 一 也 (東洋大学社会学部教授)
- 久 保 ゆかり (東洋大学社会学部教授)
- 戸 梶 亜紀彦 (東洋大学社会学部教授)
- 西 野 理 子 (東洋大学社会学部教授)
- 山 本 須美子 (東洋大学社会学部教授)
- 須 田 木綿子 (東洋大学社会学部教授)
- 桐 生 正 幸 (東洋大学社会学部教授)
- 山 田 一 成 (東洋大学社会学部教授)
- 水 野 剛 也 (東洋大学社会学部教授)
- 松 田 英 子 (東洋大学社会学部教授)
- 加 藤 司 (東洋大学社会学部准教授)
- 尾 崎 由 佳 (東洋大学社会学部准教授)
- 鈴 木 規 子 (東洋大学社会学部准教授)

〔客員研究員〕

- 小 澤 康 司 (立正大学教授)
- 西 田 公 昭 (立正大学教授)
- 松 井 豊 (筑波大学教授)
- 大 坊 郁 夫 (東京未来大学教授)
- 角 山 剛 (東京未来大学教授)
- 堀 毛 裕 子 (東北学院大学教授)
- 福 岡 欣 治 (川崎医療福祉大学准教授)
- 谷 口 尚 子 (東京工業大学准教授)

〔研究支援者〕

- 高 橋 幸 子 (東洋大学)

〔リサーチ・アシスタント〕

- 鷹 阪 龍 太 (東洋大学大学院社会学研究科)
- 陸 英 善 (東洋大学大学院社会学研究科)
- 倉 矢 匠 (東洋大学大学院社会学研究科)
- 金 子 迪 大 (東洋大学大学院社会学研究科)
- 沓 澤 岳 (東洋大学大学院社会学研究科)

東洋大学 21 世紀ヒューマン・インタラクション・リサーチ・センター
(21st Century Human Interaction Research Center : HIRC21)

平成 15 年 4 月、「文部科学省オープン・リサーチ・センター整備事業（平成 15 年度～平成 19 年度）」に採択されたプロジェクトを遂行する研究センターとして設立された。犯罪や事故・災害によって生み出される被害者や被災者の問題を、個人と個人、個人と社会のインタラクションの視点から実証的に研究するプロジェクトを推進することを目的としている。その後、「文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業（平成 20 年度～平成 24 年度）」、同（平成 25 年度～平成 29 年度）」のプロジェクトの遂行も担うことになり、現在に至っている。

東洋大学 21 世紀ヒューマン・インタラクション・
リサーチ・センター研究年報編集内規

1. 名称
東洋大学 21 世紀ヒューマン・インタラクション・リサーチ・センター（HIRC21）がその研究活動に伴って発行する報告書の名称を「東洋大学 21 世紀ヒューマン・インタラクション・リサーチ・センター研究年報」とする。
2. 発行時期および回数
本センターが設置される期間中、毎年度末に発行する。
3. 執筆者
研究年報の執筆者は以下の通りとする。
 - (1) 本センターの研究員。ただし、これ以外の教員および大学院生（他大学を含む）も共著者（第 2 著者以降）になることができる。
 - (2) リサーチ・アシスタント（ただし、本センター研究員の指導の下に執筆することとする）。
 - (3) センター長から特に依頼された者
4. 著作権
研究年報に掲載される論文等の著作権は本センターに帰属する。

平成 16 年 3 月 1 日制定
平成 17 年 3 月 1 日改訂
平成 26 年 3 月 1 日改訂
平成 28 年 3 月 1 日改訂

東洋大学 21 世紀ヒューマン・インタラクション・リサーチ・
センター研究年報 第 15 号

2018 年 3 月 15 日発行

編集兼発行者 東洋大学 21 世紀ヒューマン・インタラクション・
リサーチ・センター（HIRC21）

〒112-8606 東京都文京区白山 5-28-20
TEL 03-3945-7259
FAX 03-3945-7496
E-mail hirc21@toyo.jp

印刷所 株式会社 カントー